

『花を訪ねて： 櫻』

## 新川千本櫻散策報告(2024年04月07日(日))

今年の“観櫻”は天候に振り回された。昨年と同様に例年より早いと考えて日程を決めていて、2月には“夏日”になる程暖かだったが、3月になって寒い日が続き、開花は例年より遅くなってしまった。そのため、当初の計画を2回も延期することになってしまった。本日も天候に若干不安があったが、なんとか実施に漕ぎつけた。当日の参加は伊藤、浮津、三浦、三ヶ原、陽田の5名になった。

船堀駅は新宿から“都営新宿線”一本で行くことができるという便利な所だ。船堀駅に10時に集合して出発した。駅の壁に『海拔 -0.9m』という表示板があって、当然「新川」の水面はこの駅より低い筈なので、一体どうなっているのだろうかという疑問に思った(海から逆流しないのか)。

朝早くは曇りで、天候が心配されたが、今はもう青空になり太陽が出てきている。駅前の「船堀街道」を進むが、櫻や楠が植えられた気持ち良い遊歩道になっている。直ぐに「宇喜田橋」に着き、「新川」の土手に下りる。兩岸の土手道には、土手を作った時に植えられた比較的若い種々の櫻の木が植えられている。まず西方向、中川の方へ向かって歩く、10時25分、「西水門広場」に着いた。早速高さ15.5mの『火の見櫓』に上る、上の見張り台は狭いので、管理員が“登楼者”の人数制限をしていた。四角の櫓を螺旋状階段で上るが、当然のことながら、上の方には幅が狭くなり交互通行になる。見張り台からは西方向に中川、東に櫻並木に彩られた「新川」が望めた。管理員にこの水路の水流はどうなっているのか訊いてみると、「この西の閘門は閉めきりだが、東の旧江戸川の所の水門は、1日に一回位開いて浄化のために水を入れているよ」と教えてくれた。とすると水位は旧江戸川の方が幾分高いらしい。

10時55分、西水門広場から出て、対岸の遊歩道を歩く。川面で魚が大きく跳ねた、水面を覗くと20cm以上の大きさの魚が沢山泳いでいる、浮津さんが「あれは『ボラ』だよ」と教えてくれた。石積み部分の岸辺で釣りをしている人がいたが、もしかして『カラスミ』を作って酒の肴にしようと考えているのだろうか。途中、「擬宝珠橋」、「忍者橋」など木造の“人道橋”を過ぎると、川に満員の船客を乗せた手漕ぎ舟が2艘やつてきた。1艘は満員だが、他の舟は幾らも乗っていない、TVの撮影クルーがカメラを回していたらしい。11時40分、「櫻橋」に到着。ここには「新川さくら館」があって、また遊覧船の発着場になっていた。振り向くと櫻並木の向うに「スカイツリー」が遠望できた。

この兩岸に咲いていた櫻の種類は、染井吉野、大島櫻、江戸彼岸、枝垂れ櫻、まだ蕾の八重櫻、天の川や、その他に白花の利休梅(バラ科の花)、ジューンベリーなどが見られた。ここ「櫻橋」は丁度、「新川」の真ん中になるが、我々は川を離れて北へ進路をとった。「春江町五」信号を左折して船堀駅方向へ向かう。

12時に船堀駅の少し手前の「サイゼリア」に着き、あまり待つこともなく、座席に座ることができた。今日は結局青空に映える満開の櫻並木を十分堪能できた、その上場所柄か人出はそれ程多くはなくて、ゆったりと歩くことができた。「花見にはやっぱり酒がなくっちゃー」ということで、早速ビールで乾杯、その後には「サイゼリア」がイタリアで現地生産をして、輸入している“プライベートブランド”の「SAIZERIA 1.5L」(赤ワイン)をご注文、これは¥1,000でもお得なんです。色々の話題で盛り上がった後、13時45分に店を出て、船堀駅からの都営新宿線で帰途に着いた。

以上 陽田



『火の見櫓』と『新川千本櫻』の眺め



土手道の櫻並木



水門の操機場と『火の見櫓』



手漕ぎの和船



『小江戸橋』と「常夜灯」